令和４年度　学力・学習状況調査の結果について

１　令和４年度(2022 年度）横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について

小学校２～５年生と中学校１・２年生を対象とした「横須賀市立小・中学校学習状況調査」について、令和４年４月 11 日(月)～４月 20 日(水)に教科調査を、同年５月６日(金)～６月１日(水)に質問紙調査を、それぞれ実施しました。

本市の学習状況調査は、本市の他に、他の自治体においても、各学年、各教科概ね 13 万人から 20 万人が参加して、同一調査問題を用いて実施されているため、本市の結果を全国の状況と比較することができます。

本市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

（１）調査の概要

ア　調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

イ　調査事項

小学校２～５年生：①国語（聞き取り　有）　②算数　③質問紙

中学校１・２年生：①国語（聞き取り　有）　②数学　③質問紙

※各学年・各教科、前学年までの履修内容を出題範囲としています。

ウ　公表について

本市全体の状況及び課題について、公表いたします。

※序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

（２）教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について、同じ問題を受検した全国の児童生徒全体の平均正答率を 100 としたときの、横須賀市の正答率を示しています。下段は、本市の平均正答率および全国の平均正答率を示しています。同じ問題を受検した全国の児童生徒数は、学年や教科によって異なりますが、概ね 13 万人から 20 万人となっています。

（３）横須賀市立学校の教科別結果

【小学校２年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率	94.7	96.5	89.9	94.9	95.6	91.8
本市平均正答率	75.3	86.1	55.1	74.0	79.7	54.1
全国平均正答率	79.5	89.3	61.2	78.0	83.4	59.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 3.5 ポイント、活用は 10.1 ポイント下回りました。

具体的には、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「情報の扱い方に関する事項」は 5 ポイント程度、「書くこと」は 11 ポイント程度下回りました。

また、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 23.7%でした。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 4.4 ポイント、活用は 8.2 ポイント下回りました。

具体的には、「図形」「測定」「データの活用」は全国平均正答率と同程度でしたが、「数と計算」については全国平均正答率を 5 ポイント程度下回りました。

また、場面を表した図を選ぶ問題では、全国平均正答率を 13 ポイント程度下回っていました。

なお、記述式の問題での無解答率が本市は 26.7%でした。

【小学校３年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	92.1	93.3	88.0	93.8	94.6	90.9
本市平均正答率	61.9	72.7	40.1	69.3	73.4	57.3
全国平均正答率	67.1	77.9	45.6	73.9	77.6	63.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 6.7 ポイント、活用は 12.0 ポイント下回りました。

具体的には、昨年度課題だった「情報の扱い方に関する事項」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」については８ポイント程度下回りました。

また、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 43.9%でした。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 5.4 ポイント、活用は 9.1 ポイント下回りました。

具体的には、「数と計算」、「図形」、「測定」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率を 4～６ポイント程度下回りました。

また、「数と計算」の、加法の結合法則を用いて考え方に合うように式に括弧を書く問題では、全国平均正答率を９ポイント程度下回りました。

なお、記述式の問題での無解答率が本市は 40.6%でした。

【小学校４年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	91.4	92.0	89.7	94.2	94.6	92.0
本市平均正答率	62.1	67.6	49.9	68.8	72.6	55.2
全国平均正答率	68.0	73.5	55.6	73.1	76.8	60.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 8.0 ポイント、活用は 10.3 ポイント下回りました。

具体的には、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は 7 ポイント程度、「情報の扱い方に関する事項」は 6 ポイント程度、「書くこと」は 12 ポイント程度下回りました。

また、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 35.4%でした。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 5.4 ポイント、活用は 8.0 ポイント下回りました。

具体的には、「図形」、「測定」、「データの活用」は全国平均正答率と同程度でしたが、「数と計算」は全国平均正答率を 5 ポイント程度下回りました。

また、分子が 1 の分数が何個で 1 になるかを答える問題では、全国平均正答率を 11 ポイント程度下回りました。

なお 2 問設定された、記述式の問題での無解答率が本市はそれぞれ、22.4%、22.5%でした。

【小学校５年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	91.8	92.4	89.9	94.6	95.4	92.6
本市平均正答率	62.4	68.4	49.0	57.2	63.2	45.7
全国平均正答率	68.0	74.0	54.5	60.4	66.3	49.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 7.6 ポイント、活用は 10.1 ポイント下回りました。

具体的には、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」のうち漢字の書き取りの一部は 25 ポイント程度、「書くこと」は 11 ポイント程度下回りました。

また、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 32.9%でした。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 4.6 ポイント、活用は 7.4 ポイント下回りました。

具体的には、いずれの領域も全国平均正答率と同程度でしたが、「数と計算」のうち分配法則について問う問題では、全国平均正答率を 7 ポイント程度下回りました。

また 2 問設定された、記述式の問題での無解答率が本市はそれぞれ、28.7%、41.4%でした。

【中学校１年生】

	国　　語			数　　学		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	93.8	93.4	94.8	95.9	95.3	99.0
本市平均正答率	53.7	58.1	45.5	66.4	67.2	62.8
全国平均正答率	57.3	62.2	48.1	69.2	70.6	63.5

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 6.6 ポイント、活用は 5.2 ポイント下回りました。

具体的には、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均正答率と同程度でした。

また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」のうち小学校学習漢字の書き取りの一部は 10 ポイント程度、「書くこと」は 4 ポイント程度下回りました。

なお、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 20.9%でした。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 4.7 ポイント、活用は 1.0 ポイント下回りました。

具体的には、いずれの領域も全国正答率と同程度でしたが、「変化と関係」の、比例の関係を、x と y を使って式に表す問題では、全国平均正答率を 5 ポイント程度下回りました。

また 2 問設定された、記述式の問題での無解答率が本市はそれぞれ、14.1%、16.3%でした。

【中学校２年生】

	国　　語			数　　学		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	95.3	96.0	93.8	100.5	100.0	101.8
本市平均正答率	63.5	68.5	54.2	56.9	58.2	53.3
全国平均正答率	66.7	71.4	57.8	56.6	58.2	52.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は 4.0 ポイント、活用は 6.2 ポイント下回りました。

具体的には、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は 11 ポイント程度下回りました。

また、条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 23.9%でした。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して基礎は同数値であり、活用は 1.8 ポイント上回りました。

具体的には、いずれの領域も全国平均正答率と同程度でした。他の領域が全国正答率を０～２ポイント程度上回った一方で、「資料の活用」は２ポイント程度下回りました。

また、度数分布表から、ある階級の相対度数を求める式を答える問題では、全国平均正答率を６ポイント程度下回りました。

なお２問設定された、記述式の問題での無解答率が本市はそれぞれ、26.6%、38.0%でした。

学年・教科によって傾向は異なりますが、多くの学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。しかしながら、年度によって変動はあるものの、学年が上がるにつれて全国の児童生徒全体の平均正答率に概ね近づく傾向があります。過去の本調査や全国学力・学習状況調査の結果からも、同様の傾向をみとることができます。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。また、各学年・教科の指導改善のポイントについては、各学校に示しています。

学年・教科によっても異なりますが、理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの、記述することに課題が見られる傾向があります。教科を問わず、日々

の授業において、記述する力、表現する力を伸ばすことができるよう、引き続き授業改善を図ります。

（４）質問紙調査結果の見方

質問紙調査における個々の質問を、表に示すカテゴリーに分類しています。それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、「最も望ましい／良好な選択肢」「次に望ましい／良好な選択肢」「改善／配慮を要する選択肢」「特に改善／配慮を要する選択肢」を点数化し、どの程度の児童生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに、全国平均を 50 とする偏差値として算出した値を示しています。

したがって、値が大きいほど肯定的な回答をした児童生徒の割合が高く、また値が 50 に近いほど全国平均値に近いことが分かります。同じ調査を実施した全国の児童生徒数は、学年によって異なりますが、概ね 13 万人から 20 万人となっています。

（５）横須賀市立学校の質問紙調査結果

		小２	小３	小４	小５	中１	中２
自己認識	家族のささえ	50.0	50.0	50.3	50.2	49.9	49.5
	友だちのささえ	49.8	50.3	49.9	49.9	49.5	50.0
	先生のささえ	50.1	50.6	50.3	50.2	49.8	49.4
	成功体験と自信	49.9	50.6	50.1	50.2	50.3	49.9
	充実感と向上心	50.2	50.3	49.8	49.4	49.3	49.7
	感動体験	49.8	50.6	49.8	50.2	50.8	50.2
	他者からの評価	—	50.4	50.0	50.2	50.8	51.0
社会性	規範意識	50.2	50.5	50.3	49.5	49.3	48.4
	思いやり（人間関係構築力）	50.5	50.8	50.5	50.1	49.8	49.5
	発信力	50.8	50.9	50.4	49.8	50.7	50.3
	対話・話し合い	49.8	50.3	50.4	50.8	52.8	53.0
	社会参画	—	—	—	49.8	50.5	49.5
学級環境	学級の規範意識	49.9	49.8	50.7	50.5	50.9	49.7
	学級の絆	50.1	50.6	50.4	50.3	50.2	49.5
	いじめのサイン	48.4	47.4	48.0	49.0	48.7	48.6
	対人ストレス	48.9	49.0	48.4	48.5	47.8	48.0
生活・学習習慣	生活習慣	49.5	49.6	50.0	50.3	49.8	48.8
	学習習慣	48.9	48.9	47.4	47.9	47.9	48.5
	学習意欲	49.7	50.7	49.8	49.9	50.1	49.6

※発達段階に合わせて質問が設定されているため、学年によって質問のない項目があります。

自己認識にかかわる項目については、いずれの学年においても全国とほぼ同程度と捉えることができます。社会性にかかわる項目のうち、「対話・話し合い」については、学年が上がるにつれて値が上昇しており、各校の学習活動において対話や話し合いを多く取り入れているとともに、児童生徒がその意義を実感していると捉えることができます。

学級環境にかかわる項目のうち、「いじめのサイン」「対人ストレス」については、全ての学年において全国平均値を下回っており、いじめやその兆候、表面上見えづらい人間関係のストレスを感じている児童生徒が全国と比較して多いと捉えられます。児童生徒個々の状況を把握し、適切な指導及び支援を行うことが求められます。

生活・学習習慣にかかわる項目のうち、「学習習慣」については全ての学年において全国平均値を下回っています。「学習意欲」については全国とほぼ同程度であることから、学習意欲を学習習慣につなげることができるよう、指導改善を図る必要があります。

２　令和４年度(2022 年度）全国学力・学習状況調査の結果について

小学校６年生と中学校３年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」について、令和４年４月 19 日（火）に実施しました。

本市では本調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

（１）調査の概要

ア　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ　児童生徒に対する調査事項

（ア）教科に関する調査

＊小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。

＊出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

＊調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

（イ）質問紙調査

＊学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

ウ　公表について

本市全体の状況及び課題について、公表いたします。

※序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

（２）教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を 100 としたときの、横須賀市の正答率を示しています。下段は、本市の平均正答率および全国の公立学校の平均正答率を示しています。

（３）横須賀市立学校の教科別結果

【小学校６年生】

	国　　語	算　　数	理　　科
全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率	94.5	94.9	96.4
本市平均正答率	62.0	60.0	61.0
全国平均正答率	65.6	63.2	63.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 5.5 ポイント下回りました。

具体的には、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は６ポイント程度下回りました。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 5.1 ポイント下回りました。

全国の平均正答率より５ポイント以上、下回った設問は、①示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題（全国平均正答率 76.0%に対し、本市 70.4%）、②二つの数の最小公倍数を求める問題（同 72.2%に対し、本市 67.1%）、③表の意味を理解し，全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題（同 75.3%に対し、本市 69.8%）の３問でした。

【理科】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 3.6 ポイント下回りました。

全国の平均正答率より５ポイント以上、下回った設問は、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題（全国平均正答率 67.5%に対し、本市 61.4%）１問でした。

【中学校３年生】

	国　　語	数　　学	理　　科
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	97.1	95.3	97.4
本市平均正答率	67.0	49.0	48.0
全国平均正答率	69.0	51.4	49.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 2.9 ポイント下回りました。

全国の平均正答率より５ポイント以上、下回った設問は、①聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題（全国平均正答率 74.7%に対し、本市 68.7%）、②文脈に即して漢字を正しく書く問題（同 82.1%に対し、本市 74.8%）、の２問でした。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 4.7 ポイント下回りました。

具体的には、「図形」、「関数」、「データの活用」は全国平均正答率と同程度でしたが、「数と式」は５ポイント程度下回りました。全国の平均正答率より５ポイント以上、下回った設問は、自然数を素数の積で表す問題（全国平均正答率 52.2%に対し、本市 36.7%）１問でした。

【理科】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の正答率では、全国と比較して 2.6 ポイント下回りました。

全国の平均正答率より５ポイント以上、下回った設問は、おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題（全国平均正答率 15.3%に対し、本市 8.8%）１問でした。

小学校６年生・中学校３年生ともに、いずれの教科においても本市の児童生徒の平均正答率は、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を下回っていますが、中学校３年生については、いずれの教科もその差は５ポイント以内となっており、ほぼ同程度とみることができます。過去の本調査や、本市の学習状況調査からもみとることができるように、本市の児童生徒は学年が上がるにつれて全国の児童生徒全体の平均正答率に近づく傾向があります。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。各学年、各教科ともに、記述によって解答する問題の無解答率が高い傾向にあります。記述する力、表

現する力とともに、粘り強く課題に取り組む力を育成することができるよう、指導改善を図ります。

（４）質問紙調査結果の見方

質問紙調査における小学校６年生･中学校３年生それぞれ69の質問事項のうち、本市の児童生徒の傾向と、全国の公立学校の児童生徒全体の傾向とが大きく異なる質問事項について示しています。「選択肢」に挙げた回答をした児童生徒の割合（複数の選択肢を挙げているものについては、それらの合計）について、本市と全国の値を比較しています。本市と全国との差が５ポイント以上の質問事項について示していますが、本市が全国よりも優位であると判断できる質問事項の差については下線を付しています。

（５）横須賀市立学校の質問紙調査結果

【小学校６年生】

質問番号	質問事項	選択肢	本市（%）	全国（%）	差
（５）	普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	「①４時間以上」 「②３時間以上，４時間より少ない」	38.5	30.7	7.8
(14)	困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	62.9	68.1	△5.2
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	「①よくしている」 「②ときどきしている」	63.1	71.1	△8.0
(21)	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	「①３時間以上」 「②２時間以上，３時間より少ない」	20.1	25.1	△5.0

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
(23)	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）	「⑤10分より少ない」 「⑥全くしない」	47.3	40.4	6.9
(25)	新聞を読んでいますか	「④ほとんど，または，全く読まない」	83.1	73.0	10.1
(31)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）	「①家で勉強や読書をしている」	41.2	52.2	△11.0
(32)	５年生までに受けた授業で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を，どの程度使用しましたか	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	51.2	58.2	△7.0
(33)	学校で，授業中に自分で調べる場面で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を，どの程度使っていますか（インターネット検索など）	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	37.2	43.9	△6.7
(49)	国語の勉強は好きですか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	54.0	59.2	△5.2

【中学校３年生】

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
（５）	普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	「①４時間以上」 「②３時間以上，４時間より少ない」	40.4	29.8	10.6

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
(6)	普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンでＳＮＳや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	「①４時間以上」 「②３時間以上，４時間より少ない」	38.2	29.5	8.7
(14)	困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	57.9	66.6	△8.7
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	「①よくしている」 「②ときどきしている」	51.1	58.5	△7.4
(23)	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）	「⑤10分より少ない」 「⑥全くしない」	61.8	51.3	10.5
(25)	新聞を読んでいますか	「④ほとんど，または，全く読まない」	87.6	79.0	8.6
(26)	読書は好きですか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	60.8	68.2	△7.4
(31)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）	「②家で勉強や読書をしている」	38.9	47.9	△9.0
(32)	１，２年生のときに受けた授業で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を，どの程度使用しましたか	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	74.2	50.9	23.3
(33)	学校で，授業中に自分で調べる場面で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を，どの程度使っていますか（インターネット検索など）	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	59.7	37.2	22.5

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
(34)	学校で，学級の生徒と意見を交換する場面で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を，どの程度使っていますか	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	27.2	17.8	9.4
(38)	１，２年生のときに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していましたか	「①発表していた」 「②どちらかといえば，発表していた」	73.4	63.3	10.1
(40)	１，２年生のときに受けた授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	72.7	67.4	5.3
(45)	総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	79.5	72.1	7.4
(56)	数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	71.5	76.5	△5.0
(67)	理科の授業では，自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	70.1	64.5	5.6
(68)	理科の授業で，観察や実験の結果をもとに考察していますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば，当てはまる」	84.0	78.9	5.1

小学校６年生においては、３つの質問項目で、全国との差が８ポイントを超えており、それぞれの結果から次のような傾向をみとることができます。

① 家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が低い。
② 新聞を読まない児童の割合が高い。
③ 放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごす児童の割合が低い。

また中学校３年生については、10 の質問項目で、全国との差が８ポイントを超えており、それぞれの結果から次のような傾向をみとることができます。

① 平日に、テレビゲームやＳＮＳ、動画視聴などをする時間が長い生徒の割合が高い。
② 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できると回答している生徒の割合が低い。
③ 学校の授業時間以外に、平日に読書をしない生徒の割合が高い。
④ 新聞を読まない生徒の割合が高い。
⑤ 放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごす生徒の割合が低い。
⑥ 学校で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、自分で調べる場面や学級の生徒と意見を交換する場面で、多く使用していると回答している生徒の割合が高い。
⑦ １・２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒の割合が高い。

先に示した「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果と同様、学習習慣が身についていない児童生徒の割合が、全国平均値よりも高い傾向がみられます。また小学校６年生・中学校３年生ともに、新聞を読まない児童生徒の割合が高く、平日に読書をしない児童生徒の割合についても、高い傾向にあります。

また、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できると回答している児童生徒の割合が低い傾向があります。「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果においても、「いじめのサイン」「対人ストレス」について課題がみられているため、児童生徒個々の状況を把握し、適切な指導及び支援を行うことが求められます。

学校で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用する頻度については、中学校３年生において全国平均値を大きく上回っています。１人１台端末の配備から２年が経過した中学校においては、ＩＣＴ機器が学習活動のツールとして定着していることがうかがえます。

３　本市の課題と今後の取組について

２つの調査の結果をふまえた本市の課題に対して、今後次のような取組を実施してまいります。

本市の小・中学校における課題	今後の取組
理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの、記述することに課題がみられる。	記述、表現する力を伸ばすことができるような授業づくりを行う。
学習習慣が確立していない児童生徒の割合が高い。	学習意欲を高め、学習習慣を確立することができるような指導改善を図る。
新聞を読まない、平日に読書をしない児童生徒の割合が高い。	学校司書などを活用しながら、学校図書館や読書指導の充実を図る。
人間関係にストレスを感じている児童生徒が一定数いる。	各学校が、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、ふれあい相談員などと連携しながら、児童生徒の状況把握及び適切な支援に努める。

これまでの学習状況調査の結果については、教育委員会が課題を明らかにして市内各学校に周知し、指導改善につなげるよう指示してきました。また市内各学校においては、それぞれの学校の調査結果を分析し、指導改善につなげていく取り組みを行ってきました。

その結果、９年間の学びを通して、本市の児童生徒の学力が向上する傾向がみとれています。横須賀市立小・中学校学習状況調査、および全国学力・学習状況調査を実施し、その結果を分析したうえで成果と課題を明らかにして、指導改善につなげていくサイクルが機能し、学力の向上を図ることができていると考えられます。

今後もこれらの調査結果を活用しながら、令和４年度より新たに策定した「学力向上推進プラン」に掲げた３つの目標を達成することができるよう、取り組みを続けてまいります。